

・対策工の基本方針検討

事 項	要 点	備 考												
	<p>(1) 解析・検討方針</p> <p>斜面安定度解析の基本方針は以下の通りとする。</p> <p style="text-align: center;">斜面安定度解析の基本方針</p> <table border="1" data-bbox="497 427 1895 914"> <thead> <tr> <th data-bbox="497 427 685 496">検討手順</th> <th data-bbox="685 427 1545 496">検討項目</th> <th data-bbox="1545 427 1895 496">課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="497 496 685 639">すべり面決定 ↓</td> <td data-bbox="685 496 1545 639"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地すべり範囲 ・ 地盤の緩んだ範囲 ・ 地形条件 ・ 地質条件 ・ 変動状況 </td> <td data-bbox="1545 496 1895 639"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="497 639 685 778">安定解析の条件 ↓</td> <td data-bbox="685 639 1545 778"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地すべり移動層の単位体積重量 ・ 斜面の安定度 ・ すべり面強度 ・ 地下水位 </td> <td data-bbox="1545 639 1895 778"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="497 778 685 914">安定解析</td> <td data-bbox="685 778 1545 914"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 湛水前 ・ 湛水後 <ul style="list-style-type: none"> 貯水位上昇時 貯水位低下時 </td> <td data-bbox="1545 778 1895 914"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残留間隙水圧 残留率、浸透流解析 </td> </tr> </tbody> </table>	検討手順	検討項目	課題	すべり面決定 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地すべり範囲 ・ 地盤の緩んだ範囲 ・ 地形条件 ・ 地質条件 ・ 変動状況 		安定解析の条件 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地すべり移動層の単位体積重量 ・ 斜面の安定度 ・ すべり面強度 ・ 地下水位 		安定解析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湛水前 ・ 湛水後 <ul style="list-style-type: none"> 貯水位上昇時 貯水位低下時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留間隙水圧 残留率、浸透流解析 	
検討手順	検討項目	課題												
すべり面決定 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地すべり範囲 ・ 地盤の緩んだ範囲 ・ 地形条件 ・ 地質条件 ・ 変動状況 													
安定解析の条件 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地すべり移動層の単位体積重量 ・ 斜面の安定度 ・ すべり面強度 ・ 地下水位 													
安定解析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湛水前 ・ 湛水後 <ul style="list-style-type: none"> 貯水位上昇時 貯水位低下時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留間隙水圧 残留率、浸透流解析 												

・対策工の基本方針検討

事 項	要 点		備 考																					
	<p>(2) 対策工法検討方針</p> <p>今回の地すべり範囲の対策は、押え盛土工を主体とし、アンカー工や鋼管杭工等との併用工法を検討する。また隣接した緩み域については、地すべり範囲の対策で安定化が図れると考えられるが、今後貯水した場合に不安定化する可能性があることから、対策検討が必要である。</p> <p style="text-align: center;">各工法の検討項目</p> <table border="1" data-bbox="472 470 1904 1129"> <thead> <tr> <th data-bbox="472 470 665 510">対策工法</th> <th data-bbox="665 470 1032 510">適応性</th> <th data-bbox="1032 470 1904 510">検討項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="472 510 665 667">押え盛土工</td> <td data-bbox="665 510 1032 667">即効性が期待でき、最も有望である。</td> <td data-bbox="1032 510 1904 667"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河道確保 ・ 盛土材の材質とその確保 ・ 押え盛土自体の安定度確保 ・ 出水時の施工対応 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 667 665 738">頭部排土工</td> <td data-bbox="665 667 1032 738">即効性が期待できる。</td> <td data-bbox="1032 667 1904 738"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緩み域とその上部の安定性 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 738 665 817">地下水排除工</td> <td data-bbox="665 738 1032 817">集中豪雨等における地下水水位上昇の防止に有効である。</td> <td data-bbox="1032 738 1904 817"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水状況 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 817 665 973">アンカー工</td> <td data-bbox="665 817 1032 973">法面全体を面的に抑止できる。</td> <td data-bbox="1032 817 1904 973"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既設アンカー部分の処理 ・ アンカー工の長期的安定性 ・ アンカー工の施工性 ・ 維持管理方法 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 973 665 1053">深礎工</td> <td data-bbox="665 973 1032 1053">既設アンカー工への影響なく対策可能 盛土内への埋設可能</td> <td data-bbox="1032 973 1904 1053"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深部での水中施工方法 ・ 施工中における地すべりの安定性確保 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="472 1053 665 1129">鋼管杭工</td> <td data-bbox="665 1053 1032 1129">既設アンカー工への影響なく対策可能 盛土内への埋設可能</td> <td data-bbox="1032 1053 1904 1129"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大口径掘削の施工性 ・ 施工中における地すべりの安定性確保 </td> </tr> </tbody> </table>		対策工法	適応性	検討項目	押え盛土工	即効性が期待でき、最も有望である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河道確保 ・ 盛土材の材質とその確保 ・ 押え盛土自体の安定度確保 ・ 出水時の施工対応 	頭部排土工	即効性が期待できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緩み域とその上部の安定性 	地下水排除工	集中豪雨等における地下水水位上昇の防止に有効である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水状況 	アンカー工	法面全体を面的に抑止できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既設アンカー部分の処理 ・ アンカー工の長期的安定性 ・ アンカー工の施工性 ・ 維持管理方法 	深礎工	既設アンカー工への影響なく対策可能 盛土内への埋設可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深部での水中施工方法 ・ 施工中における地すべりの安定性確保 	鋼管杭工	既設アンカー工への影響なく対策可能 盛土内への埋設可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口径掘削の施工性 ・ 施工中における地すべりの安定性確保 	
対策工法	適応性	検討項目																						
押え盛土工	即効性が期待でき、最も有望である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河道確保 ・ 盛土材の材質とその確保 ・ 押え盛土自体の安定度確保 ・ 出水時の施工対応 																						
頭部排土工	即効性が期待できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緩み域とその上部の安定性 																						
地下水排除工	集中豪雨等における地下水水位上昇の防止に有効である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水状況 																						
アンカー工	法面全体を面的に抑止できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既設アンカー部分の処理 ・ アンカー工の長期的安定性 ・ アンカー工の施工性 ・ 維持管理方法 																						
深礎工	既設アンカー工への影響なく対策可能 盛土内への埋設可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深部での水中施工方法 ・ 施工中における地すべりの安定性確保 																						
鋼管杭工	既設アンカー工への影響なく対策可能 盛土内への埋設可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口径掘削の施工性 ・ 施工中における地すべりの安定性確保 																						